

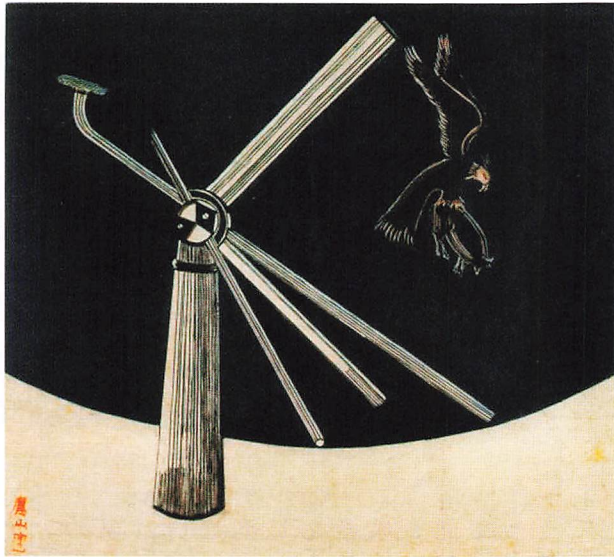
友

SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501  
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会  
〈TEL〉0176-62-5858 〈FAX〉0176-62-5860  
〈e-mail〉takayamamuseum@ruby.plala.or.jp



「機械と鳥」 紙・木版 年々許



「機械と虫」 紙・木版 1930(s5)年

【 鷹 山 宇 一 】

●・・・ミュージアム・コレクションから⑦  
鷹山宇一『機械と虫』『機械と鳥』・・・

1930(昭和5)年は、鷹山宇一にとって劇的な、ひとつの節目となる1年であったに違いない。日本美術学校を卒業した年であり、二科展に木版画2点が初入選を果たした。そして、今日当館が把握する限り、この年に制作された作品は油彩画、木版画と混在しており、鷹山の画家としての方向性を探る様々な試みがなされたであろうことを想像することが出来る。油彩画は、当時流行のフォーヴィスムを踏襲した、茶系の絵の具を幾重にもキャンバスに塗り重ねたような作風で、都会の風景を描いているのが特徴的。一方木版画はというと、これもまた日本洋画界の最先端をいくシヨールレアリスム風の、しかもかなり手の込んだつくりである。

機械シリーズでも言えようか、対をなすようなこの『機械と虫』『機械と鳥』は、鷹山が自宅アトリエに長く保管していた木版画で、おそらく同年の1930年に制作されたものだろう。巧に計算された画面配分、直線や曲線などを用いた幾何学的な構図は、鷹山のデザイナーとしての側面を覗かせている。

機械として表現されているものに注目して欲しい。無機的なはずの機械はどうしたことだろう、まるで「生きもの」のように見えてはこないだろうか。「機械を擬人化」した、いや逆に、「人間が機械化」したかのようである。自然が創り出した同類であるはずの虫や鳥そして人間が、ここでは、人間だけ切り離されて機械と同化している。

画家を志し青森を飛び出して3年。憧れの東京にはこれまでにない新しい世界が広がっていたことである。街並みも人も、すべてが画家魂を揺さぶる刺激物であったに違いない。これらは鷹山独特の感性により昇華され抽象化されて、ここに鷹山宇一の「都会風景」として表現されている、そのように思えてならない。この2点を含む鷹山木版4点が、11月26日(日)まで群馬県立館林美術館特別展「夢のなかの自然」で紹介されています。是非一度足を運びください。

( 宇 山 會 ) 大 沢 里 希 子

2006年度第2回友の会 研修旅行 8月26日・30日

青森県立美術館開館記念展

「シヤガール『アレコ』とアメリカ亡命時代」  
三内丸山遺跡を訪ねて 研修旅行記

「あく来てよかった」

南部町／杉沢 深雪

去る8月30日、県立美術館で開催されている「シヤガール展」での感想である。中学時代を思い起こせばきれいなドレスを着て空を飛んでいる女の子の人、それを地上から見上げて



6本柱の前で夢見る我ら縄文人!(26日)

いる猫、太陽と月……。初めて眼にした絵は不思議なものだった。構図・色彩・人物の表情などじっと見てみると幻想の世界に浸り、創造が広がり、気持ちが高揚したことを思い出す。鑑賞を大好きにしてくれた画家はシヤガールだったかもしれない。この日、長い間気になっていた何か鑑賞後はすっきりした快い気分に変わっていた。6月の美術講演会で「シヤガール展」や郷土の作家その他のコレクションの概要と常設・企画展示について懇切丁寧な説明を受けてから期待をしていた。

アレコホールは、テレビのニュースなどから人物との比較で、天井の高さ広さなどは想像していた通りであった。「アレコ」に限らず背景画の展示は珍しく、他の美術館でも見学の記憶がない。ダイナミックでスケールの異なる空間であった。4点の背景画の説明を聞きながらダンスのストーリーや動き、旋律などを想像し新鮮な気持ちと感動を味わった。ロシア生まれのユダヤ人シヤガールは何度かの迫害を受けながらも自らの思いや生き方をいろいろな色彩で強調し描き続けたに違いない。世



青森県立美術館アプローチ看板前にて(30日)

相を反映した多くの作品は、いつの日にか多くの人々に受け入れられることを願って黙々とキャンバスに向かったことだろう。

県立美術館は外観とは異なり、内部は床に引かれた矢印のある迷路も面白く、展示物の新鮮さと共に魅力あるものだった。この緑の中の白亜の美術館は冬季には周囲の景色と同化し、また違うイメージで私たちを迎えてくれるに違いない。

県立美術館が文化の中心として長く県民に親しまれることを願いつつ……。

同行のスタッフの方々や、帰りに立ち寄った鷹山美術館では温かいコーヒーを差し入れてくださり出迎えてくださった館長さんの笑顔に感謝しています。

ボランティアの皆様

ありがとうございます

★夏休みの特別企画展「安野光雅展」は、大人も子どもも心から豊かになる企画展ですね。この度も友の会会員の皆様による監視ボランティアで美術館への協力ができました。お疲れ様です。

おすすめ美術館原稿募集中

★国内外を問わず訪問記や写真をお寄せ頂ければ幸いです。小さなわたくし美術館などは非鑑賞してもらいたい美術館がたくさん存在していると思います。会員皆様のご寄稿をお待ちしております。

会員登録の更新と新規会員

入会お誘いをお願いします

★友の会平成18年度の第2回研修旅行も無事終了し、第3回目の研修旅行が9月27日に行われます。本年も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいたような企画により、地域文化の振興に寄与していく所存でございます。皆様には引き続き会員登録をお願ひ申し上げます。また、ご友人を会員にお誘い頂くなど会の振興にご協力をお願い致します。

▽一般会員

会費(個人)年度会費 3千円

▽特別会員

会費(個人・法人)年度会費 1万円

▽賛助会員

会費(個人・法人)年度会費 2万円

※詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

第6回

鷹山賞児童作品展  
地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

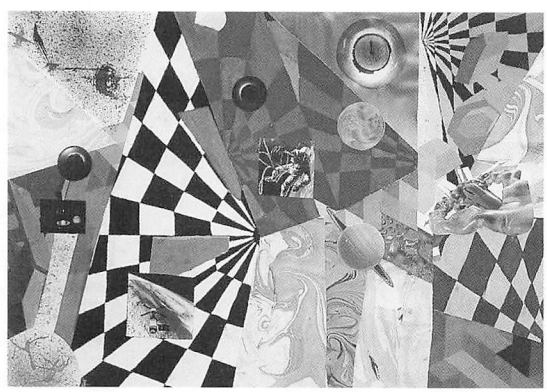
2006年11月19日(日) ～ 2007年1月28日(日)

本年も残すところあと4分の1。時の流れの何と早いことでしょう。季節は秋を迎え、いよいよ、子どもたちのための子どもたちによる「絵画展」がはじまります。

この「鷹山賞児童作品展」と「地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」は、平成12(2000)年から毎年開催している。当館の「核」をなす大切な事業として、地域の子どもたちに、制作体験をおして自由に創造することの楽しさを味わってもらいつつ、同世代の世界各国の子どもたちによる優れた作品を鑑賞する機会を通じて、豊かな心を養っていただきたい、さらには第二の鷹山宇一の誕生を願って...などと、盛りだくさんの希望のもと開催して参りました。

9月15日の締切を前に、本年の鷹山賞展へも続々と作品が寄せられています。只今10月4日の審査会に向け準備中ですが、子どもたちの素直な気持ち表現された力作たちに、思わず頬が緩みます。展覧会には100点余りの入賞入選作品を展示予定です。

(財)日本品質保証機構が主催する「世界児童画コンテスト」は、「地球を救う君たちへ」と世界各国の子どもたちに



第5回鷹山賞児童作品展・鷹山賞「旅立ち」  
前田俊【三沢市立第五中学校2年生(2005年)】

呼びかけ、地球規模の環境破壊が深刻な昨今、未来を担う子どもたちに自然の大切さを感じてもらおうと、身近な自然環境について日常生活や遊びを通して感じたことなどを、子どもらしい自由な発想でのびのびと制作してもらおうというものです。今展では54カ国・応募総数19,443点から優秀作品に選ばれた80余点を紹介します。

是非ご家族で子どもたちによる絵画展へお出掛けください。



第6回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展・海外最優秀賞  
『汚染された町:通りを行き交う人々』  
Israt Ether【バングラデシュ・13才】

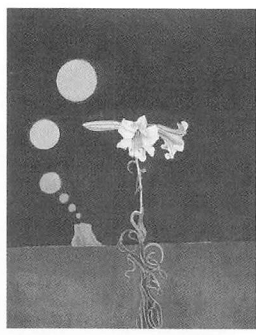
●休館日●  
毎週月曜日  
祝日の場合は開館し翌日休館  
年末年始  
12/30(土)～1/2(火)  
●入館時間●  
10:00～17:30  
(閉館は18:00)  
●入館料●  
一般/500(400)円  
学生/300(240)円  
小中学生/100(80)円  
※上記料金で常設展もご観覧いただけます。  
※( )内は20名様以上の団体、  
県民加ッ受講者、JAF会員  
割引料金。

オズズメの展覧会①

鷹山宇一木版4点が展示されます  
▼群馬県立館林美術館▲  
「夢のなかの自然」  
昭和初期のシュルレアリスムから現代の絵画へ  
9/16(土)～11/26(日)

昭和初期に流行した「シュルレアリスム絵画」に見られる自然のイメージについて考案し、あわせて現代絵画における自然表現との対比を試みる展覧会。昭和初期の画家、写真家35名による絵画、写真など約100点のほか、現代作家5名による絵画作品で構成。本展へは、当館からの貸出作品を含む鷹山宇一の木版画4点が出品されています。東京方面へお出掛けの際には、足を伸ばして是非お立ち寄りください。

▼開館時間/9時30分～17時  
▼休館日/毎週月曜日。但し、祝日の場合は開館し翌日休館  
▼観覧料/一般800円、大高生400円、中学生以下は無料。  
※このほか詳細は、館林美術館までお問い合わせください。  
電話 0276-21-0000 <http://www.gmla.net/jp>



今展へ出品されている  
鷹山宇一の木版画  
「若き花」(1941年)

津和野町立安野光雅美術館コレクション

安野光雅の世界展から

10月9日(日祝)まで好評開催中!

NHK青森放送局を共催に、7月30日(日)初日を迎えロングランで開催中の安野光雅展も、10月9日(月・祝)の最終日までいよいよ残すところあとわずかとなりました。

夏休み、お盆、そして初秋の季節を経て、お子様連れのご家族、友人等と一緒に、県内外から多くの方々に「来館をいただいております。何よりも、熱狂的な安野ファンが多いこと!あらためて安野先生の世代を超えた人気の高さに驚かされました。

ここでは、「安野展」のこれまでの歩みをダイジェストでご紹介いたします。すでにご来館をいただいた皆様、新しい発見がまだまだあると思います。そしてこれからという皆様、どうぞ「大切な誰か」と是非お出掛けください。ご来館を心からお待ちしております。



▲「もりのえほん」表紙  
展示された絵本原画の中でも、子どもから大人まで世代を超えて大人気だった作品。緻密に描かれた森の風景をよ〜く見てみると・・・たくさんの動物たちが見えてくるよ! ©Anno2006

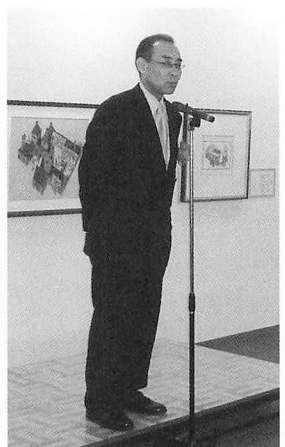
▼7/29(土) オープニング・レセプションを開催

初日を前に、テープカット・開催式・内覧会・ギャラリートークを開催しました。友の会会員をはじめとする招待者を対象に当日は約70名が参加し、開幕を祝いました。

○テープカット  
右から当館名誉館長 鷹山増子、福土孝衛 七戸町長、安野美術館・広石修副館長、蝦名武副知事、共催のNHK青森放送局・海老名徳雪局長、中村正彦七戸町議会議長、当財団理事長・青山浄晃



○津和野町立安野光雅美術館・栗本睦学芸員によるギャラリートーク。約30分にわたり展示された安野作品にまつわるエピソードなどお話しいただきました。

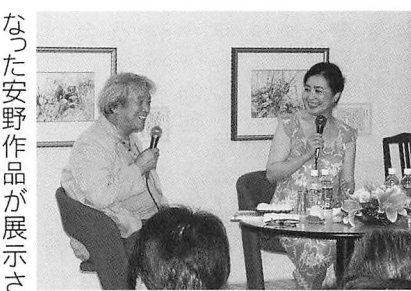


○津和野町立安野光雅美術館・広石修副館長よりご祝辞を賜りました。



○蝦名武副知事よりご祝辞を賜りました。

なつた安野作品が展示された絵画室は160人の超満員! 森ミドリファンのみならず、安野光雅ファンを大いに楽しませてくださいました。2時間で



○森ミドリ先生のチェレスタコンサートへ願ってもない安野先生のご参加! 「トーク&チェレスタコンサート」として開催された今回、会場と

◀ 8/1(火)開館記念日に安野光雅先生と森ミドリ先生によるトーク&チェレスタコンサートを開催

▼7/30(日)「安野展」第1号のお客様



○小田ひで子さん(七戸町)。記念品として安野グッズを贈呈しました。

▼「吉野展」寄せられた来館者の感想が

■久しぶりにやさしさの中の絵の中にいることが出来ました。知らず知らずのうち自分笑みを浮かべながら絵を見られた、本当に久しぶりのことです。気持ちが温かくなれる、それもまた絵を見る素晴らしさなのです。

【むつ市48才女性】

■子どもの頃に見た絵本の記憶、大人になってから見た旅の本、どれをとっても心安まる絵で安野さんの絵はとっても気に入っています。

【弘前市39才男性】

■気持ちが安らかになるような、そんな絵に囲まれて、幸せな時間をもてました。

【青森市62才女性】

■夏休みに残るような体験をと考え、シャガール、山崎 今日この時間が落ち着いた時間が一番良かったのでは？と思っています。今後も親子でゆっくり過ごせる企画を希望します。

【無記名】

■夢が多くあって、素晴らしい想像の世界も広がっており、見る人個々それぞれに夢が膨らむ。安野先生の心の豊かさを感じた。

【十和田市69才男性】

■子どもの頃からいつも傍らに安野光雅さんの絵本がありました。森の絵、旅の絵、ふしぎな絵…。物事を考えるという脳の中に、壁紙のように存在し続けた安野さんの絵は、私の中の固定概念を取り払う大きな助けとなりました。今日は記憶と共に十分に楽しませていただきました。

【三沢市39才女性】

子どもたちのための  
ワークショップから  
Report!!

●●●●●●●●

いちようくらぶ  
ま〜と!くらぶ

今回は「いちようくらぶ」で8月1日に開催した「安野光雅先生/森ミドリ先生交流会」の様子をご紹介します。美術館で行った「トーク&チエレスタウンサート」に合わせて七戸入りなさった先生方と、倉岡の大銀南木の下で様々なお話をしました。

美術館で安野先生の作品を鑑賞した子どもたちは、「どうしたらこんなに上手に絵が描けるのか」ということが一番気になったようです。以下は先生と子どもたちの会話の様子です。

Q 「どうしたら先生のように絵が描けますか？」

A 「私は絵を描くのが大好きだから、大好きなことっていつかは、どんなことがあっても続けられるものなんだ…」

Q 「絵本などのアイデアはどうやって考えるんですか(中学生)?」



A 「僕はね、何かを考えているときにふっと遠くところが浮かんだりして、それをずーっとあとに思いだしたりすることがよくあります。人間はいつも何かを思ってる動



物だから、思うことをやめなさいって言われてもそれはできない。やめようって思うと、それはもう思っていることになるでしょう? だから、たくさん思っていると、何かが見えてくるのかも

られないね…」

先生の言葉はどれも柔らかくでありながらずっしりと重みのあるものでした。お話会の後は、大銀南木から美術館に移り、イチヨウを見て思ったみんなの感想を元に森ミドリ先生と詩を作りました。森先生はその詩に即興で曲をつけ、チエレスタを演奏しながら歌ってくださいました。十分くらいでできた詩とは思えないほど、素晴らしい曲になりました。

でかくて高いいちようの木  
折れた枝が土に入って  
もう一本木が生まれてる  
太い根っこがポコポコ

大きく長いいちようの木  
へんなものが垂れている  
蜂の巣もあつたよ  
神様みたいな木  
みんなの木  
だいたすきないちようの木

最後にみんなで作ったプレゼントを先生方に差し上げました。安野光雅先生、森ミドリ先生、貴重なお時間を本当にありがとうございました。



オススヌの展覧会②

二科会彫刻部会員・当財団理事  
よしのたけし

「吉野毅展」へ彫刻

9/27(水)〜10/3(火)

日本橋高島屋6階美術画廊



静謐で格調高い女性像で知られる彫刻家・吉野毅先生の個展が開催されます。

最新作を中心に約15点を展示。是非お出掛けください。

▼開館時間/10時〜20時

(※最終日10/3は16時終了)

▼休館日/無休

▼観覧料/無料

▼最寄り駅のご案内

・JR「東京駅」八重洲北口から徒歩5分

・東京メトロ銀座線・東西線「日本橋駅」

B1出口

※このほか詳細は、日本橋高島屋までお問い合わせください。電話03(3211)4111



▲「標」プロズ、h72.5cm

※写真は高島屋美術部企画発行「吉野毅展」図録より転載いたしました。

# 美術館日誌

## 6月

- 1日/「楽しい旅の会」24名様ご来館。鷹山館長「子どもの文化」会議出席のため青森出張。美術館冷房切替
- 3日/鷹山館長六戸町日の出保育園にて講演会。当館を会場に「地方からの幸福づくり女性フォーラム」を開催
- 4日/「四季折々の花たち展」最終日、総入館者数7,014名
- 5日/鷹山宇一コレクションランブ搬入
- 6日/展示替えのため臨時休館(9日迄)。四季折々の花たち展「作品撤去搬出
- 7日/七彩会「油絵入門講座⑥」。鷹山館長青森出張
- 9日/「フォトしちのへ」協力のものと「第66回国際写真サロン展」展示作業
- 10日/「第66回国際写真サロン展」第4回女性写真公募展初日(18日迄)。友の会総会及び青森県立美術館工藤学芸員を講師に記念講演会開催
- 11日/写真教室・モデル撮影会(全日写連青森本部主催)開催、講師に全日写連関東本部委員・高木サダ子氏
- 12日/七戸町学社連携検討会議へ鷹山館長・佐伯出席
- 13日/火曜サロン開催
- 14日/七彩会「油絵入門講座⑥」。鷹山館長十和田市出張
- 15日/鷹山館長青森市出張
- 17日/七彩会油絵教室
- 18日/「第66回国際写真サロン展」第4回女性写真公募展最終日、総入館者数353名。いちようっ子くらぶ「和菓子づくり」開催
- 20日/展示替えのため臨時休館(23日迄)。鷹山館長八戸あおぎりにて講演会

## 7月

- 21日/七彩会「油絵入門講座⑦」
- 22日/健康あおもり推進隊(空気がリーン)施設受動喫煙防止対策(実施設)現地調査のため担当職員ご来館
- 24日/鷹山宇一常設展開催(7/23迄)。あぐっといくらぶ「木版画①」開催
- 26日/鷹山館長 佐伯青森出張(安野展打合せほか)
- 28日/七彩会「油絵入門講座⑧」。鷹山館長 十和田市立ちとせ小学校にて講演会。大池あすなろマスターカレッジ会議出席のため青森出張
- 29日/鷹山館長八戸水産高校にて講演会。友の会「南仏・パリ海外研修旅行」近畿日本ツーリストとの打合せ
- 1日/あぐっといくらぶ「絵馬づくり」開催
- 2日/七彩会油絵教室
- 3日/鷹山館長「縄文遺跡活用連絡協議会」出席のため青森出張
- 4日/鷹山館長「生涯学習審議会」出席のため青森出張
- 5日/七彩会「油絵入門講座⑨」。東奥日報社「シヤガール」展(県民募金の件で友の会を取材、山谷青森県立美術館開館準備室ご来館。鷹山館長五所川原市立南小学校にて講演会)
- 7日/森田会計説明会出席のため青森出張
- 8日/あぐっといくらぶ、いちようっ子くらぶ合同ワークショップ「テラコッタづくり」開催、講師に二科会彫刻部会員 島田 紘一 先生。鷹山館長青い森フアード中間報告会出席のため青森出張
- 10日/鷹山館長「あしゅまる運動会」出席のため青森出張
- 11日/県立七戸養護学校生徒、教員

## 8月

- 12名様ご来館
- 12日/七彩会「油絵入門講座⑩」
- 13日/鷹山館長青森県立美術館開館記念式典へ出席。大池むつ小川原地域「産業振興財団」助成金説明会出席のため東北町出張
- 14日/鷹山館長青森出張
- 15日/あぐっといくらぶ「木版画②」開催
- 16日/七彩会油絵教室
- 19日/「サンデー毎日」当館を取材
- 21日/鷹山館長福岡県嘉麻市へ出張。織田廣喜美術館開館10周年記念座談会出席のため(24日迄)
- 23日/博物館実習生「古橋理衣さん」受入れ(北里大学4年、5/8/2迄)
- 25日/展示替えのため臨時休館(29日迄)。鷹山館長虫歯予防ポスター審査。いちようっ子くらぶ「山海サミット」へ参加、佐伯古屋敷八戸市出張
- 27日/安野光雅展作品搬入
- 28日/安野光雅展作品展示作業、津和野町立安野光雅美術館から広石副館長、栗本学芸員ご来館
- 29日/安野光雅展開催式、栗本学芸員によるギャラリートーク開催
- 30日/安野光雅展初日(10/9迄)。七戸町民広報無料招待券利用日。友の会役員会開催
- 31日/RAB青森放送、NHK青森放送局「安野展」を取材。博物館実習生「鈴木秋津さん」受入れ(北里大学5年、5/8/11迄)

## 9月

- 1日/開館記念日。安野光雅・森ミドリトーク&チェリストコンサート開催。安野先生、森先生を講師にいちようっ子くらぶ特別ワークショップ開催
- 2日/三沢市幼稚園教育研究会31名様ご来館、鷹山館長講演。七戸町
- 4日/いちようっ子くらぶ「シルバリアクセサリーづくり」開催
- 5日/七戸町と遠野市との児童交流事業参加の6年生ほか64名様ご来館、シルバリアクセサリーづくりを体験
- 6日/大人のためのワークショップ「シルバリアクセサリーづくり」開催。博物館実習生「野崎拓矢さん」受入れ(東北芸術工科大学4年、5/8/19迄)
- 9日/大池 佐伯青森県立美術館教育関係者研修会参加のため青森出張
- 10日/鷹山館長東京出張、OKギヤラリーにて鼻煙壺打合せ(11日迄)
- 14日/鷹山館長風間浦村成人式にて講演会
- 15日/鷹山館長「八戸倫理法人会」にて講演会
- 17日/鷹山館長青森出張
- 18日/読売新聞社「鷹山館長を取材」
- 19日/七彩会油絵教室。大池鼻煙壺資料調査のため東京出張
- 21日/デリーー東北新聞社「安野展」を取材
- 24日/七戸町出身の映画監督「タテナイ氏」美術館を会場に撮影。鷹山館長「個人情報保護法説明会」に出席(七戸町商工会)
- 26日/あぐっといくらぶ「木版画③」開催。友の会「県美・三内丸山遺跡」研修旅行①開催
- 29日/鷹山館長「縄文遺跡活用連絡協議会」出席のため青森出張
- 30日/友の会「県美・三内丸山遺跡」研修旅行②開催。群馬県立館林美術館へ鷹山木版3点を貸出。町立城南小学校4年生児童教員48名様、同校6年生児童教員43名様ご来館
- 31日/町立城南小学校2年生児童教員44名様ご来館

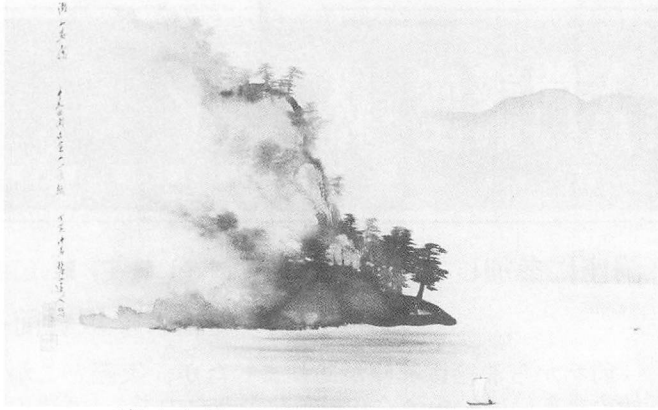
(財)鷹山宇一記念美術振興会

常務理事 濱中 達 男

明治二十八年四月、二十歳の幡山は上京して寺崎広業門塾生となり、前年函館から先着の野田九浦と共に手本稽古、粉本の模写など互いに励ましあい画の勉強を始めます。

間もない五月末、徴兵検査を受けるため帰郷しますが、五尺二寸に二分足らず不合格の不名誉を味わうことになります。

幡山はこの帰郷を機会に十和田湖



幡山筆「湖山春靄(十和田湖御倉山一風景)」  
※ポストカードより転載

を探勝しております。

当時、十和田湖へ行くには地元の家内人を必要とするほど険しい道程であったようです。

六月一日七戸を発ち、沢田、奥瀬を經由して奥入瀬川を遡り、子ノ口字樽部を通り休屋に至り、十和田神社に詣で、十和田湖の景勝地を巡る十一日間の十和田探勝の旅は、幡山の脳裏に「神苑霊湖」として刻まれるのです。

「回顧六十年」には探勝記の他に、「神苑の憧れと其神秘感」と題し、次の文を載せております。

「唯私としては茲に書き落としたらぬことは、入山第一日の翌早朝起床して顔を洗ひ、直ちに杉林中の参道を通り静寂な小社殿に額ずいた。早朝とて誰一人の参詣者もないが、何の寂しみも感ぜず屈託もなく平然として裏手の神苑山に登り、齡千年もある老杉盤根錯節の間、モクモクとした綿の如き落葉の地表を踏み、鉄の梯を伝つて崖下に降りて陰森の氣に満ちた紺碧の漂ふ深潭に臨んだが、此が即ち吉凶禍福を占う古称お三五場(今占場と云ふ)である。まことに見慣れぬ奇趣であり珍らしき光景に見惚れ、懷中から写生帳を出してアチコチ写生する裡に、突然サトと音して風が吹き来たかと思ふ刹那、不思議や身の肌寒さを感じた途端に全身の毛根が立ち、更に其毛穴から糸のやうなものが出て、之が悉く全身を覆つたかと思ふと、丁度蜘蛛の巣か又は魚網を冠せられたまゝ、深淵に引寄せられる力強さである。ビククリして之ではならぬと氣を取

直し、急いで鉄梯を攀ち上り崖上にあつてホッと一息吐いた時の物怖ろしさ。」

と、靈的な感覚に浸つたことを強調しています。

幡山には凡人、凡庸では感ずることの出来ない美的感性と靈感の受容器が備わつていたように思われます。

図らずも徴兵検査のため帰郷をした折、先人から伝え聞いていた郷里の十和田湖の景勝を自らの目で確かめようと思ひ立つたことは、その後の幡山に大きな影響を与え、十和田湖開発の先駆けとして奔走したことと思ひますと、誠に運命的な旅であつたと思われまふ。

明治中期(二十八年)前後の十和田湖周辺に関する年表を見ますと、  
・元禄六年(一六九三) 十和田湖新道開さく成る(五戸郷藩士・木村又助秀晴)。  
・享和二年(一八〇二) 菅江真澄、十曲湖(十和田湖)を遊覧。

・嘉永二年(一八四九) 松浦武四郎、大畑から十和田湖へ。鹿角日誌。  
・明治二年(一八七〇) 秋田県花輪の人・栗山新兵衛、十和田湖休屋へ仮住まい、定住して鉾山へ物資を供給、開拓に当たる。

・明治十四年(一八八一) 和井内貞行、工務省十和田鉾山吏員となる。  
・明治十六年(一八八三) 三戸の教員、大庭恒次郎ら十和田湖を探勝。  
・同年、五戸の人・三浦泉八、戸来より字樽部間の私道を開さく。以後、字樽部を開拓、鉾山へ物資を供給。  
・明治十七年(一八八四) 花輪の川



幡山筆「吉凶如何(十和田神社占場光景)」  
※ポストカードより転載

村竹治、内藤湖南、五戸の鳥谷部春亭の諸氏が探検し各々詩文を草す。

・明治二十三年(一八九〇) 和井内貞行、鈴木通貫、三浦泉八の連名で「養魚願」を青森県知事へ提出。  
・明治二十八年(一八九五) 鳥谷幡山、十和田湖探勝。

・明治三十四年(一九〇一) 和井内貞行、青森県より、北海道支笏湖から持ち帰つたヒメマス魚卵五万粒を供与され、ふ化につとめて、十和田湖ヒメマス養殖のさきがけとなる。

・明治三十五年(一九〇二) 青森歩兵第五連隊雪中行軍遭難事件。

以下略。

奇しくも十和田湖で受けた強い印象と共に再び上京した幡山は、師宗広業のもとで、本格的な画の修業を始めます。

つづく

# 平成18年度「油絵入門講座」終了！！

このほど、初心者対象の「油絵入門講座」全10回（講師：小川敏雄氏）が終了しました。

平成11年度に開催した講座から絵画グループ「七彩会」が誕生し、会員相互の研鑽に励んでいます。このたび、本講座を修了した方々全員が新たに「七彩会」へ入会しました。講座はこれからも随時開催したいと思っております。



▲指導中の小川敏雄先生

講座に参加して

受講者 坂倉前子

前々から油絵は興味がありましたが、実際どこから始めたらいいのかわからなかったもので、「老後の楽しみかな」と思っておりました。しかし、友だちから「美術館で入門コースがある」ということでお誘いをいただき、参加することが出来ました。

道具の揃え方から使い方など、初心者にもきちんと分かりやすく教えていただき、週1回、全10回で、何とか頑張って3枚の絵を描き終えることが出来ました。

実際見るのとやるのとは違うということがよく分かりました。また、今まで一つのを何時間も見続けたことなどあったでしょうか？そして、このような静かな時間を持つことが出来て、本当に感謝しています。

これからも油絵を楽しんでやっていけるよう、皆さんのお力をいただいで、続けていきたいと思っております。

## 箱根・ポーラ美術館

### ～Information～

- 開館時間／9:00～17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日／年中無休（展示替えのため臨時休館あり）
- 入館料／大人 1,800円  
シニア割引（65歳以上）1,600円  
障害者及び付添者1名 1,000円  
インターネット割引券（100円引）  
※大学生等は問い合わせ先までご確認ください。
- 交通案内／東京から  
☆電車／小田急線箱根湯本駅  
～バス又はタクシー  
☆高速バス／小田急新宿駅～
- レストラン・ショップあり
- 問い合わせ先／  
☆住所：〒250-0631  
神奈川県足柄下郡箱根町  
仙石原小塚山1285  
☆電話 0460-4-2111  
☆E-mail:  
info@polamuseum.or.jp

## おすすめ美術館 箱根・ポーラ美術館

十和田市／下山恭美子

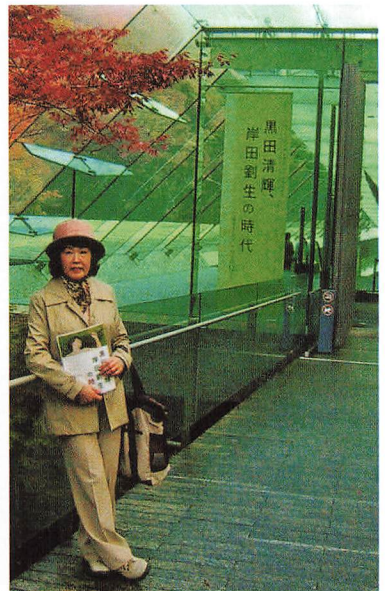
「箱根の山は天下の剣……」スイッチバックしながら進む箱根登山鉄道からバスに乗り継ぎ、樹木のトンネルが続く曲がりくねった道を行くと、空の青さ、木々の緑を映し出したガラス張りの建物『ポーラ美術館』が忽然と現れます。アプローチ・ブリッジを通過してエントランスホールに入ると、地下一階の企画展示室、地下二階の常設展示室やその他の施設が、自然採光の中、吹き抜けの空間から見渡せます。

小鳥の囀り、虫の音、木の葉のささやき、風や雲の流れなど大自然をも背景にした、耐震式ドーム型の建築様式を取り入れたスケールの大きさが感じられます。

展示室に入ると、落ち着いた雰囲気の中で、最新の光ファイバー照明による作品展示がされています。西洋絵画から日本の洋画、日本画、版画、彫刻、陶器、当美術館特有の化粧道具に至る 9,500点の中からテーマを決めての企画展や定期的に展示換えをする常設展があり、その収蔵品の多さに驚かされます。

一度目は『印象派……』、二度目は『黒田清輝・岸田劉生の時代』と銘打った企画展でしたが、他の美術館では観られない作品群との出会いもまた、楽しいことでした。

女性たちの美を支えてきたポーラ化粧品(株)が、その利益をこの様な形で社会に還元・提供してくれていることを感謝しながら…。でも、入館料の1,800円には少々驚かされました。（友の会理事）



### 編集後記

★県立美術館への研修旅行。キャンセル待ちが多く、急遽8月30日に2回目を実施しました。嬉しい悲鳴です。  
★研修旅行企画のため、ご意見・ご要望をお寄せ下さい。  
(E・T)